



徳西人

後以退日休様  
接高深古  
是也  
知

井一三  
同人  
念  
下毛  
了  
も



28



も大印ありが故に在る

× × ×

今日の子一伊孫伯りて武

断風を花路せむる年抑

も成るにたて武断り

同化に事の一莫く外なら

スよと在る

空下高の精微はるる

成林アラン

× × ×

空下か産卵のほとるこたへ

早身融女、入ら枝のこ

若実の清くはる精山

川上お方の後以お直

接、さうもさる右接は因

下の女ナリ、空下り当

妻ノ人保と信をいへ也

精山の女は物ニ同下

の批信をいへ、ぬしは



世ノ人傑ト信スル也  
精山の女は特ニ國下  
ヲ批信スル人如ク  
やは當人の子息トシ  
り母トス

陸奥守人の意向一情  
ニ合シ、聖主ノ閣下  
對ス其の感化要下  
安民の恩交り加ふ  
可シ、以先帝  
奪服、伊賀一軍の  
仇有以治之と云  
死セシムル忠臣ノ名

オヤ  
メメメ

か生國下ニ求ル所ナリ但  
た國下ノ實ニ當者ノ人  
物ナリ知シ、か生天下ノ

上物ニ接スル了りカキテ未



々々々々

か生周下と求む所たし但

た周下ノ奥ニ當る人

物たり知ん、か生天下の

上切ニ接たりたりか未

た周下り如く臆哉具

存の語信定るん故に

周下りかぬ周下の更

一たの老腕り出揮

かかおしりり勢思ス

平生の格据注原の夫

かかかぬ也 周下者心こ

かかかぬ心の憚るる所

りまは 且つ江海の宏

量りぬる就周注決

アうンイウ ちかかぬ



一十

おのれしやう勢思ふ

平生の拮据注言文

あかあか也 固平書こ

おのれ思ひの憐れなる所

りま 且つ江海の空

景の心を執る決

アウツイウ ちんちん

印互

十月日記

何月

大徳寺

写本下